



(高崎)

父連山より連なる上武山地にあたる。この上武山地は利根川上流部右岸、行政界上は埼玉県北西部から群馬県南西部にまたがっている。この地域を巨視的に概観すると関東平野から関東山地に移行する境界域に相当する。遺跡周辺の地形は女堀川の支流によって開析された支谷が数多く存在し、起伏に富んだ

# 埼玉・山崎上ノ南遺跡B地点 やまざきかみのみなみ

- 1 所在地 埼玉県児玉郡児玉町大字飯倉
- 2 調査期間 一九九七年(平9)四月～一月
- 3 発掘機関 児玉町遺跡調査会
- 4 調査担当者 大熊季広・尾内俊彦
- 5 遺跡の種類 集落跡・包含層
- 6 遺跡の年代 奈良時代・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

景観を呈している。遺跡は山崎と呼ばれる支谷に面し、この南東斜面がさらに小さな沢筋によって開析された小支谷によって挟まれた舌状にのびる山地先端部付近に位置している。集落跡は標高約一三九～一四七m、幅約二〇～二二mのやや急峻で狭隘な南側斜面に占地し、これに連なる小支谷に遺物包含層が形成されている。

遺跡の周辺に目を向けると北西一・六kmには古代における武蔵国二の宮とされる金鑽神社が所在し、また南側に隣接する小支谷には金草窠跡の存在が推定されている。この小支谷からは交叉鋸歯文縁複弁八葉軒丸瓦が検出されており、馬騎の内廃寺、さいからばら 臼樹原遺跡、城戸野廃寺などから同範のものが検出されている。

今回の調査で確認した遺構は、竪穴住居一一棟、須恵器窯跡一基、土坑、及び埋没谷などである。埋没谷からは純層に近い浅間山系B軽石層(天仁元年(一一〇八)噴出)を介して遺物包含層及び木杭列により流路を変更された溝跡などを検出した。須恵器窯跡は残存長二・五七m、最大幅一・三m、深さ二五cmを測り、平面プランはわずかに胴の張る長方形を呈し、奥壁上部には一段高い隅丸方形の煙道部が突出している。

出土した遺物は、須恵器・土師器などの土器類をはじめ、製鉄関連の轆の羽口片・鉄滓、また埋没谷からは木簡をはじめ盤・椀・曲物・火鑽臼や加工痕のある多くの木製品、桃などの種子類や植物遺存体、あるいは針状の鉄製品・鉄製鎌・一部に漆塗膜の遺存する銅

製巡方、牛または馬のものとされる獣歯・獣骨片など多岐にわたる。また、「長」「太」などの墨書土器も複数確認されている。

木簡は遺物包含層中位やや上から、文字面を下にしわずかに傾斜した状態で出土した。周辺からは土師器杯の小片数点も出土した。

## 8 木簡の釈文・内容

### (1) 檜前マ名代女上寺稻肆拾束

宝亀二年十月二日税長大伴国足

(183)×53×5 0.0

上端は欠損しているが下端部は原形を保つ。文字は比較的良好に遺存している。板材は桁目と板目の中間であり木目は傾斜している。下端部は摩耗しているが平坦面はみられず、オりのみの可能性が考えられる。表面はハギトリ状ケズリで、一部カットグラス状ケズリが施される。裏面は部分的なハギトリ状ケズリで、廃棄後生じたとと思われる亀裂が顕著である。成形・調整とも粗雑な感を受ける。

出挙の収納を記録した木簡と推定されるが、『延喜主税寮式』の武蔵国分寺料との関係は定かでない。なお、紀年銘を記したものである。として埼玉県初のものである。

(大熊季広)

今  
木簡  
名代女上寺稻肆拾束  
宝亀二年十月二日  
大伴国足

## 木簡研究 第一七号

巻頭言——書は言を尽くさず、言は意を尽くさず——

佐藤宗諱

一九九四年出土の木簡

概要 平城宮跡 平城京跡左京三条一坊十二坪 平城京跡 平城京跡  
左京七条一坊十六坪 東大寺 奈良女子大学構内遺跡 高安城関連遺  
跡 藤原宮跡 藤原京跡左京七条一坊東南坪 藤原京跡左京十一坊三  
坊 長岡京跡(1) 長岡京跡(2) 長岡京跡(3) 平安京跡左京四坊一  
町 平安京跡左京八条三坊十四町 平安京跡右京八条二坊二町 慈照  
寺境内 客坊山遺跡群 大坂城跡 袴狭遺跡 見蔵岡遺跡 有年原・  
田中遺跡 梶子北遺跡 曲金北遺跡 伊興遺跡 錦糸町駅北口遺跡  
宮町遺跡 前橋城遺跡 荒田目条里遺跡 矢玉遺跡 山王遺跡 大坪  
遺跡 中尊寺境内金剛院 花立Ⅱ遺跡 志羅山遺跡 福井城跡 大友  
西遺跡 石名田木舟遺跡(1) 石名田木舟遺跡(2) 北高木遺跡 水橋荒  
町遺跡 山木戸遺跡 上郷遺跡 陰田小犬田遺跡 米子城跡七遺跡  
三田谷Ⅰ遺跡 吉川元春館跡 田村遺跡群 姉川城跡 中園遺跡Ⅲ区  
一九七七年以前出土の木簡(一七)

平城京跡左京二条二坊六坪

榎山 明

刻歯簡牘初探——漢簡形態論のために——  
新潟特別研究集会の記録

国史跡指定答申になった八幡林官衙遺跡：小林昌一、八幡林遺跡の時代  
的変遷：田中靖、古代越後平野の環境・交通・官衙：坂井秀弥、封緘木  
簡考：佐藤信、八幡林遺跡木簡と地方官衙論：平川南、討論のまとめ  
書評 鬼頭清明著『古代木簡の基礎的研究』

集報

頒価 五五〇〇円 送料六〇〇円

今津勝紀